

評決は最悪の誤審

カリフォルニア州

A・ゴッドワード

白人警察官の集団暴行事件に対するロサンゼルス地裁陪審の無罪評決は、最悪の誤審だと思います。

カンジの非暴力主義を信奉する者として、私は今回の暴動について黒人や恵まれない非白人米国民を非難する気にはなれません。かつて奴隷制度を持ち、今なお白人男性による強力な権力構造に操られている米国社会で、彼らには権限も表現の自由もほとんど許されていないのです。

集団暴行事件のてんまつを最初からつづきに目撃し、詳細に記したメモを手にしたヒスパニック系婦人を、五月一日にロスのテレビで見ました。彼女は検察側のインタビューで、キング青年が終始、警察官たちに協力的だったと証言しましたが、別の証言者の婦人警官と話が矛盾するので、証人台には呼ばれませんでした。

検察側はまた、シーミバレー地区で地裁陪審を開くことを許したことに責めを負うべきです。そこは主に白人が住み、保守的で、他民族集団に対し強い偏見を持つているのは周知のことです。

R・キング事件は歴史上の転換点です。米国で人種差別問題を解決できなければ、希望はないと思います。米国が世界の指導者なのは軍事力でも経済力でもなく、民

主主義の理想によるのだ、と私は幼いころから感じていましたから。

Eイズ検査は差別

東京都 T・フアーマー

(米国・医師)

日本で働いて十年になります。

東京商工会議所のEイズ問題懇談会座長「神谷雄・松久社長」が「できれば外国人従業員にEイズの検査をしたい」と語ったと知り(五月十五日・朝日イブニングニュース)驚き、ショックを受けました。こうした態度は、あきらかに差別で「日本人はきれいだ、が、外国人は違う」といっているのと同じです。

神谷氏は、まず日本の実態を見る必要があります。日本のEイズ感染者は一九九一年は、前年の二・五倍ですが、実際の数はその十倍かもしれない、と多くの医者はいっています。

日本のEイズ感染者の中で一番多いのは、実は異性愛です。理由としては男性による複数女性との性交渉と、広く行われているコンドームなしのセックスがあげられます。

前述の記事によれば、工場で保菌者の外国人が作業中にけがをして、その血液からEイズ菌が感染することを神谷氏は憂慮しています。しかし現代の日本におけるEイズ感染状況に比べたら、そうした症例はゼロに等しいと気付くべきです。

Eイズ検査は成田空港や新宿・歌舞伎町を通過するビジネスマンからまず始めることにしませんか。

残虐な動物番組

北海道 C・ソラリ

(米国・英語教師)

先日、TBSの特別番組「NG大祭典」を見ました。最初は結構、楽しんでいました。しかし、やがて別の、同じ番組とはとても信じられないような、ぞっとするビデオになりました。

一歳半ぐらいの男の子が子猫を床に落とし、その上に座り、要するに、アイロンで猫をせんべいにする以外のあらゆることをやっていました。

同じビデオに登場した大人の一人はぐったりした子猫をつまみ上げて、まだ生きているかどうか見ていました。彼は何を考えていたのでしょうか。これを撮影していた人のことは、どう考えるべきでしょうか。

次は犬です。男が車のドアを開き、犬が飛び込み、男がドアを閉め、一呼吸おいてまた開ける、という早わざでした。三回目には犬が半分飛び込んだところで男はドアを閉めてしまったのです。私はテレビのスイッチを切りました。

こうしたハブニング型のテレビショーに人気があるようですが、動物や人間に対する暴力や残虐行為のどこがこっけいなのか、番組の制作者やディレクターの説明を聞きたいものです。